

『新・小学校学習指導要領解説・理科編における 問題点について』へのコメント

大 瀨 順 彦

Comments on "Concerning the Commentary (for Science Study)
on the New Primary School Course of Study"

Nobuhiko OHAMA

1. コメント

本著者は、1998年改訂、2002年度施行の現在の小学校学習指導要領⁽¹⁾が、小学校の理科教育に大きな変化をもたらしていることを指摘した。⁽²⁾ その中で、新しくなった小学校学習指導要領解説・理科編⁽³⁾の第2章、第1節：理科の目標に記載の文章の中に重要な問題点が生じていることを詳述した。そこで、問題点を指摘する箇所の文章を以下に、全文を引用して示す。(以下の文章で、「」内が引用文章である。なお、引用文中の「」は、『』で示す。)

まず、理科の目標(11ページ)において、児童が観察や実験などを行う際に、見通しをもつことに3つの含意があり、その3番目の意義として次の文章が記されている。

「第三は、自然の事物・現象の性質や規則性、真理などの特性に対する考え方の転換である。自然の特性は、人間と無関係に自然の中に存在するのではなく、人間がそれを見通しとして発想し、観察、実験などにより検討し承認したものである。つまり、自然の特性は人間の創造の産物であるという考え方である。」

(以下、これを文章Aとする。)

一方、上記の文章Aに関して、日本物理学会、応用物理学会及び日本教育物理学会の3学会は、3学会会長名で、中央教育審議会宛に『初等中等教育に関する提言』の提出を、2004年12月22日付けで行った。この提言(全12項目)中で、「2. 正しい科学的知識を教える理科教育」の項目において、以下のように指摘している。⁽⁴⁾ (正確な記述をするために、この項目の全文を引用する。)

「2. 正しい科学的知識を教える理科教育

現行の学習指導要領が前提としている『科学的なものの見方や考え方』は、科学者の持っている認識とは大幅に異なっている。『小学校学習指導要領解説・理科編』(平成11年文部省発行)には『自然の特性は、人間と無関係に自然の中に存在するのではなく、…、自然の特性は人間の創造の産物であるという考え方…。』(本著者注：上記の文章Aの最初の1文を省略した文章である。)が述べられ、『児童が構築していく自然に対する感じ方や考えも(科学的な)見方や考え方に含めても良い。』と解説されて、学習内容より、生徒たちが自由に意見を述べることに重点が置かれている。科学的に確立した知識と子ども達の思いつきを同じ価値に置くことは、教育の否定、科学の否定につながる。この教育方針がこれ以上進められると、現在の学力低下がさらに悪化することが懸念される。(下線部分は本著者による。)

科学教育の目的は、人類が築き上げてきた科学的な知識や基本的な考え方を教え、教えられたことにもとづいて自ら考える能力を育成することにある。活発な意見が出るような授業はもとより大切であるが、正しい科学的知識の積み上げと両立しなければならない。理科の目標を、児童生徒が正しい知識をもとに着実に学習を進め、それを土台にして自分の考えを展開することができるように改めることを提案する。」

以上の提言における指摘は、その第2項目として取り上げられており、本著者が論文で指摘した事項と一致している。⁽²⁾ 上記の指摘における下線部分が、

特に重要であることをコメントしておきたい。

なお、この提言のその他の項目は、以下の通りである。

- (1) 理科の学習時間の回復
- (2) 系統的知識の重視と科学的思考力の養成
- (3) 中学校における基本事項の復活
- (4) 選択形式の見直し
- (5) 高等学校における全員必修の理科
- (6) 学習指導要領における「歯止め規定」の削除
- (7) 教員へのサポート
- (8) 観点評価の見直し
- (9) 授業準備や後片付けの時間確保
- (10) 教員の自主的な研修の機会の保証
- (11) 教育予算の増額

その後、日本物理学会では、会長名で中央教育審議会宛に『初等中等教育および教員養成の専門職大学院設置に関する要望』の提出を、2005年7月14日付けで行った。⁽⁵⁾ その要望の中では、上記の提言の第1項目にある、「理科の学習時間の回復」を、さらに押し進める重要項目として、「小学校・中学校における理科の時間の増加について」を取り上げている。この項目については、その必要性を詳細に要望していることも、併せてコメントしておきたい。

参考文献

- (1) 文部省：小学校学習指導要領（大蔵省印刷局、1998（平成10）年12月17日初版発行）
- (2) 大瀧順彦：「新・小学校学習指導要領解説・理科編における問題点について」：西南学院大学教育・福祉論集、第3巻第2号（2004）pp. 39-47.
- (3) 文部省：小学校学習指導要領解説・理科編（東洋館出版社、1999（平成11）年5月31日初版発行）
- (4) 本会記事：「中央教育審議会宛『初等中等教育に関する提言』の提出に

ついて」：日本物理学会誌、第60巻第2号（2005）pp. 165-167.

- (5) 本会記事：「中央教育審議会への要望書について」：日本物理学会誌、第60巻第9号（2005）pp. 767-769.

西南学院大学人間科学部児童教育学科